

高田三郎作品による リヒトクライス 第23回演奏会



高田三郎 (作曲家 1913-2000)



Licht Kreis リヒトクライス

混声合唱団コーロ・ソフィア／女声合唱団コーロ・コスモス
しおさい／大井しらゆりコーラス／筑波大学混声合唱団
「ヨハネによる福音」の輪

1992年、鈴木茂明の指揮する5団体が高田三郎作品の精神と芸術性に共鳴して結成。以来毎年高田作品の個展としての演奏会を開催し、23回目を迎える。「リヒト」はドイツ語で「光」を、「クライス」は同じく「輪」を意味する。プログラムは混声・女声・男声合唱曲、典礼聖歌、室内楽曲、オルガン曲など多岐にわたり、高田作品の真髓を味わえるとの評価は高い。

本当の言葉を求め

東日本大震災や原発事故から5年。さらに戦後70年の節目を過ぎ、何か大切なものが大きな音を立てて崩れていくのを感じる。そんな折、高田三郎作品によるリヒトクライス第22回演奏会に行った。高田は、詩の真実を追究した高野喜久雄の詩に基づく合唱曲を作曲、また「典礼聖歌」研究でも知られている。「リヒトクライス」は、高田作品の演奏を継続的に指揮する鈴木茂明による音楽グループだ。

くなぜ なぜかと問うことをせず／いまこそ
わたしも試みる／「雲雀！」／ひばりだとわたしが
となえれば／ゆくりなく／馬も日傘も つぶても
枯葉も／おお凡て／凡てのものは 雲雀にかわれ
。高野による「わたしの願い」の一節である。歌声はまるで地から天に舞いあがる「ひばり」のように澄みわたり、こころの一切の汚れを落とすかのように会場に響く。天高く舞う「ひばり」とは、無垢に澄んだ本当の言葉を求める詩人や音楽家の精神そのものだろう。

典礼聖歌ではく神の前に貧しい人はしあわせ／
天の国はその人のもの／悲しむ人はしあわせ／そ
の人は慰めを受けると悲嘆に寄り添う曲が流れ、
会場を埋めた聴衆から拍手がやまない。「言葉が
氾濫し、危うい気配のする今だからこそ、本当の
言葉を見つめ続けていきたい」との鈴木音楽の
力が伝わったのだ。

酒井佐忠 (文芸ジャーナリスト)
2016年3月7日毎日新聞「詩歌の森へ」より